

敗北逆アナル【END2】勇者様は敗北しました。

清楚清廉だった彼女はふたなりサキユバスに堕ちて…

シーン50

「ふふふふ♡♡ こうやって、魔王様のいらつしやる場所まで一緒に歩くのは久々ですね♡」

「魔王討伐、と言ってここにやって来たのは本当に遠い過去のことのように思われますね……」

「パーティの方々とはもう別れてしまいましたが、全員おチンポ様の素晴らしさに感銘を受けてくれて嬉しい限りですよ♡」

「ああ♡ そうそう、私はたまにですが、人間の村に赴いておチンポ様の信仰を広めていたりもしています♡」

「そういう意味では勇者様がおチンポ様信者の第一人者かもしれませんね♡」

「ふふふふ♡ いいですか？ 勇者様？ 今から魔王様に穴奴隷として、勇者様のお披露目をいたします」

「……不安ですか？ 大丈夫ですよ♡ あれだけおチンポ様に感謝して、祈られてきた勇者様なんですから♡」

「ちゃんと務めを果たすことができると思いますよ♡ ふふふふふふふふ♡♡」

「魔王様、お待たせいたしました。こちらが勇者……いえ、今は立派な穴奴隷となっています♡」

「ふふふふ♡ 勇者様、魔王様に自分のことを紹介してください……」

「ええ♡ おチンポ様が好きで、アナルを犯されることが大好きな穴奴隷ですよ♡ と正直に言うだけでいいんですよ♡」

「ふふふふ♡♡ よく出来ました♡ ……どうかされました？ ああ♡ 魔王様が侍らせている魔物様

……お二人のことですか？」

「ええ、ええ♡ あのお二方は、昔の勇者様のお仲間……女魔法使いさんと女戦士さんのお二方ですよ♡ 面影はありますよね♡ よく見てください♡」

「犬耳に体毛、大きな尻尾にサキユバスの角と羽が生えた元女戦士さんは、嬉しそうに魔王様のおチンポを啜らせてフェラをされています……♡」

「青い肌、触手のような髪にクラゲのような帽子をゆらゆらとさせながら、魔王様の首元にしなだれかかつてキスをしているのが女魔法使いさんですよ♡」

「ふふふふ♡ 今二人ともおチンポ様に夢中ですし、魔王様に穴奴隷として扱われてとても幸せそうですよ♡」

「ええ、ええ♡ 前にもお伝えしましたよね？♡ お二人にはみっちりとおチンポ様の素晴らしさを教えてあげて♡ ああなりました♡」

「勇者様が来たというのに、ひと目視線を向けることもせず、魔王様のおチンポにご奉仕する立派なメスですね♡」

「……まあ♡ あらあら♡ 勇者様♡ 少しくらいは怒るか、悲しむか、そういった反応をするかと思つたのですが……♡」

「なんて羨ましそうな顔♡ 勇者様もすっかり穴奴隷としての自覚が出ていますね♡」

「ふふ♡ ふふふふ♡ なんて可愛い穴奴隷なんでしょう♡ 大丈夫ですよ♡ 勇者様♡」

「勇者様には私のおチンポ様でいっぱいご褒美をあげちゃいますからね♡」

「魔王様にも勇者様が情けない姿でおチンポ様を受け入れている様子を見てもらいましょね♡」

「ふふふ♡ では、早速……♡ ん♡ ああ♡ 勇者様のケツまん♡ やっぱり最高です♡ はあはあ、

んん♡ 私のおチンポ様を一気に突き入れて♡ ん♡ 全部簡単に飲み込めるんですから♡

んん♡」

「はあ、はあ、はあ……♡ んふふふ♡ ほら、勇者様♡ 情けない姿を、元仲間のお二人と、魔王様にちゃんと見てもらいましょ♡」

「ん♡ 勇者様がアナルをズボズボされて、たくさん感じてる♡」

「ああ♡ イイですねえ♡ ふふ♡ ん♡ アナルがきゅってキツくなりましたね♡ ふふふ♡

すっく気持ちいいですよ♡」

「見られて恥ずかしくなっちゃいましたか♡ そんなことはないですよ♡ こんなに感じているの♡」

「ああ、そうだ♡ だったらこういうのはどうです♡ アナルをズボズボされながら、喘いじやう

穴奴隷ですよ♡ って言ってみましょ♡」

「口に出したら、もっと恥ずかしくなりますか♡ それとも興奮しますか♡」

「ふふふ♡ 今の勇者様なら、できますよ♡ ……さん、はい♡」

「ああ♡ イイですね♡ 本当に素敵♡ アナルもキュウキュウって締まっていますよ♡ んん♡」

「本当に勇者様はおチンポ様を喜ばせるのが上手ですね♡ このままなら……♡ ん♡ すぐに射精、

できてるですよ♡ 勇者様♡」

「んん♡ ああ♡ 本当に♡ すっく、気持ちいいですよ♡ 勇者様あ♡ んん♡ 勇者様も気

持ちいいですよ♡」

「勇者様のおちんちんも、こんなにバッキバキに勃起しちゃってますもんね♡」

「お尻の穴、奥までズボズボされて♡ おちんちん、触られなくてもびゅーびゅーって出しちゃうん

ですよ♡」

「もう、限界ですか♡ ふふふ♡ ええ、ええ♡ 分かりますとも♡ 何回、勇者様のケツまんご

を使つてると思つてるんですよ♡」

「ふふふ♡ 今の……穴奴隷の勇者様は♡ おチンポ様が射精したら、勇者様のおちんちんも射

精しちゃうくらい感じちゃうんですよ♡」

「どうでも気持ちいいですもんねっ♡ びゅーびゅーって出ちゃうの♡ 止められないですもんね♡  
」それ、皆さんに見てもらいましょっ♡ ふふふ♡ 見やすいように、ちよっと体勢変えますね、  
♡

「ああ♡ 素敵ですね♡ なんっ♡ 勇者様のおちんちんと、アナルがちゃんと見えるように、お股  
を皆さんに見せつけながら♡」

「抱きかかえたまま、下からいっばい突き上げてあげますね♡ なんっ♡ はあ、はあ、はあ、なんっ  
あっ♡」

「締まるっ♡ っ♡ すっっっ、イイですよ♡ 勇者様あ♡ なんっ♡ あっ♡ もう私っ♡ イっ  
ちやいそっ♡ですっ♡」

「おチンポ様からっ♡ 精子っ♡ 出ますっ♡ 勇者様の穴にっ♡ 全部っ♡ 出るっ♡ 出りゅっ♡  
なんっ、なんっうっうっうっうっうっ！ー！♡♡♡」

「ふーっ♡ っ♡ なんっ♡ はあ、はあ、はあ……ああ♡ イイですね♡ 勇者様もたくさん出  
たじゃないですか♡」

「なんっ♡ 勇者様がびゅーびゅーって出した精子♡ 魔王様の前まで飛んじやってますねえ♡ っ♡  
っ♡」

「ああ♡ 勇者様♡ 魔王様の前まで飛ばした精子♡ 魔物のお二人が美味しそうに舐め取って  
らっ♡しゃいますよ♡」

「勇者様の精液は美味しいみたいで喜んでるみたいです♡ よかったですね♡」  
「勇者様もちゃんとびゅーびゅーって射精できて偉いですよ♡」

「私が出ししたから♡ 気持ちよくなっちゃったから♡ 射精しちやっただすよね♡ っ♡  
」このまま抜かずに続けますね♡ いっばい見てもらいましょっ♡ なんっ♡」

「んっ♡ はあ、はあ、んあっ♡ 一度射精したから♡ 中がすっくめるねえ♡ なんっ♡  
」滑りが良くなってるのにっ♡ なんっ♡ 締め付けは強くなってる気がします♡ くっ♡ なんっ♡

「おチンポ様も♡ 喜んでますよお♡ なんっ♡ ああ♡ 勇者様♡ おチンポ様を感じさせられて、  
偉いですね♡ はあはあ、んんっ♡」

「……ああ♡ いいですね♡ 勇者様♡ お二人も来て下さいましたよ♡」  
「っ♡ 勇者様のお顔の前に、立派なふたなりチンポを突き出してオナニー始めちゃいました  
ねえ♡」

「きっ、勇者様の可愛く喘いでいる姿を見て、興奮しちゃっただすよ♡ っ♡  
」ほらほら、勇者様♡ お二人のチンポにも、キスしてあげてください♡ ちゃんご奉仕してあげ  
なっ♡♡

「……ああ♡ イイですね♡ とても素敵ですよ♡ 勇者様♡ たくさんのチンポに囲まれて♡」  
「アナルをスボスボされて♡ 勇者様は幸せですね♡ ふふふ♡ あらあら♡ 先程イっちゃったば  
っかりのおちんちん♡」

「また勃起しちゃいましたかっ♡ ふふふ♡ チンポ舐めさせられて♡ おチンポ様でズボズボされて♡ 感じちゃいましたかっ♡」

「ああ♡ イイですよ♡ そのまま、びゅーびゅーって♡ 何回でも射精しちゃいましょう♡」

「おチンポ様に感謝を忘れずに♡ 快感に溺れながら♡ たくさん精子♡ 出しちゃいましょう♡ ほら、イけ♡ イっちゃえ♡ ふふふ♡ あっ♡ イイですよ♡ アナルすっごく、締まって……ん♡」

「んっ♡♡ びゅーびゅーって出ちゃいましたね♡ ケツまんこがすっごく締まって、気持ちいいですよ♡ んっ♡♡ はあ、はあ、んっ♡♡ 何度でも出していいですからね♡ 勇者様がイキやすくなるように……♡」

「おチンポ様でたくさん突き上げてあげます♡ ふふふ♡♡ んっ♡♡ んっ♡♡ んっ♡♡」

「アナル、ズボズボされて♡ おちんちん、バカになっちゃいますしっ♡♡ ふふふ♡♡ ああ♡ イイ♡」  
「すっごく、締まるっ♡♡ んんっ♡♡ ふふふ♡♡ 勇者様のおちんちん、また勃起してる♡ んっ♡♡ はあ、はあ、んんっ♡」

「シッコシッコしなくても♡♡ すぐに出せますよねっ♡♡ んっ♡♡ んっ♡♡ おチンポ様に突き上げられて♡ 喘ぎ声上げながら、イっちゃうんですよっ♡♡ ああ♡ 本当に素敵ですよ♡ 勇者様♡♡ ふふふ♡♡」

「ずっど体もビクビクしてて♡♡ 今にも射精しちゃいそう♡♡ また、イクんですよっ♡♡」  
「いいですよ♡ 全部、見てあげますから♡♡ ほら、皆さんの前で何度でもイっちゃいましょうっ♡♡」  
「イっちゃえ♡♡ イっちゃえっ♡♡ ふふふ♡♡ 勇者おちんちんから、せーし♡ 出しちゃえ♡♡ んっ♡♡ んんっ♡♡」

「んあ♡♡ はあ、はあ、ふふふ♡♡ また、イっちゃいましたね♡♡ 何回しても♡♡ すっごく量ですよ♡♡ 勇者様♡」

「はあ、はあ、はあ……んんっ♡♡ ふふふ♡♡ 勇者様のおちんちん♡ 勃起しっぱなしになっちゃいましたね♡♡ あんっ♡♡」

「おちんちん、もう壊れちゃいましたかっ♡♡ ふふふ♡♡ 気持ち良すぎて、バカになっちゃいましたっ♡♡」

「でも、止められないですよっ♡♡ おチンポ様の快感を、求めちゃってるんですよっ♡♡ ふふふ♡♡」

「何度も、何度もお尻の穴に突っ込まれて♡ そのたびにいっぱい感じてましたもんね♡ 自分から求めちゃうようになっちゃいますからっ♡♡」

「勇者様の穴は本当に素敵ですよ♡ きっとお使いになる魔物様も満足してくれると思います♡」  
「もちろん♡ 私のおチンポ様も使わせてくださいね♡ んんっ♡ ああ、イイですよ♡ 今、キュウってアナルが締まりました♡」

「おチンポ様で穴をほじられるの本当に好きなんですわね♡ それでこそ、立派な穴奴隷ですよ♡ 勇者様♡」

「んん♡♡ ずっと可愛い喘ぎ声あげながら、何回でも無様に射精してる姿を見せてくれて……♡♡ 「私もずっと興奮しっぱなしです♡ ほら、目の前のお二人も同じなようですね♡ ああ♡♡ またイクンですから♡♡」

「いいですよ♡♡ 見てあげますから♡♡ 全部出しちゃいませう♡♡ ふう♡♡ キンタマ♡♡ 空っぽになっちゃうくらいい♡♡」

「たくさん精子出しちゃいましよ♡♡ ふう♡♡♡♡ 何度でも、何度でも♡♡ 満足するまで出していいですからね♡♡ 勇者様♡♡」

「ふう♡♡♡♡ ほう、びゅーびゅーって♡♡ 全部吐き出しちゃいませう♡♡ ん♡♡ ああ♡♡ またっ、締まる♡♡♡♡ んん♡♡♡♡」

「ん♡♡♡♡ はあ、ふう、ふう、ふう………ふう♡♡♡♡ 本当に、気持ちよさそうにイッてくれるんですね♡♡ 素敵ですよ♡♡ 勇者様♡♡」

「はあ、はあ、んん♡♡♡ 私のおチンポ様も、そろそろ、限界が近いみたいです♡♡ ……おや、あらあら♡♡」

「目の前のお二人も限界みたいですわね♡♡ ふう♡♡♡♡ じゃあ最後は、全員で一緒にイっちゃいましよら♡♡♡♡ あん♡♡♡♡」

「もちろん、勇者様も一緒ですよ♡♡ できますからね♡♡♡♡ ええ、ええ♡♡ 分かっていますよ♡♡♡♡」

「私が中出したら♡♡♡ 一緒に出ちゃうんですね♡♡ ふう♡♡♡♡ ところってん射精♡♡ 一番気持ちいいんじゃないですか♡♡♡」

「はあ、はあ、んん♡♡♡ 気持ち良すぎて、気絶しちゃってもいいから♡♡ 派手にイっちゃいましよら♡♡♡」

「んん♡♡♡♡ ああ♡♡♡♡ すいすい♡♡♡♡ 精子♡♡♡ 上がったきた♡♡♡♡ んん♡♡♡♡ あっ♡♡♡♡ もう♡♡♡♡ 私♡♡♡♡ イキます♡♡♡♡」

「勇者様の穴に♡♡♡ 全部♡♡♡ 出します♡♡♡ あっ♡♡♡ あっ♡♡♡ 来る♡♡♡ 精子♡♡♡ 来る♡♡♡♡ んんん♡♡♡♡」

「んん♡♡♡♡ イっ♡♡♡♡ イっ♡♡♡♡ イっ♡♡♡♡ イっ♡♡♡♡ イっ♡♡♡♡ はあ♡♡♡♡ はあ♡♡♡♡ はあ♡♡♡♡ んん♡♡♡♡ ふう♡♡♡♡♡♡」

「ああ♡♡ 素敵ですよ♡♡ 勇者様♡♡ はあ、はあ、はあ………ん♡♡♡」

「お二人のザーメンシャワー受けながら、たくさん気持ちよくなっちゃいましたね♡♡ ええ、ええ♡♡♡♡ っ♡♡♡♡ おお姿ですよ♡♡♡」

「それな♡♡♡………満足いただけただけではないでしょ♡♡♡ いかげん♡♡♡ 魔王様♡♡」

「おめ♡♡♡♡ おめ♡♡♡♡ 勇者様♡♡♡ これで魔王城で穴奴隷として飼っていただ♡♡♡ 許可をいただきましたね」

「ええ、ええ♡ これもおチンポ様の導きのおかげです♡ もちろん、私もたまに勇者様の穴を使い、寄らせていただきますね♡」

「元女戦士さんも元女魔法使いさんも、魔王様の許可を貰えれば連れてきますから♡」

「肉奴隷同士楽しめるかもしれませんよ♡ ふふふふ♡ よかったですね♡ 勇者様♡」